

「障害者に関する世論調査」の概要

平成 29 年 9 月
内閣府政府広報室

- 調査対象 全国の日本国籍を有する 18 歳以上の者 3,000 人
有効回収数 1,771 人 (回収率 59.0%)
- 調査期間 平成 29 年 8 月 3 日 ～ 8 月 13 日 (調査員による個別面接聴取)
- 調査目的 障害及び障害者に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。
- 調査項目
- 1 障害者に対する意識について
 - 2 障害者とのふれあいについて
 - 3 障害者関連施策について
- 調査実績 「障害者に関する世論調査」
(昭和 62 年 7 月、平成 4 年 8 月、9 年 7 月、13 年 9 月、19 年 2 月、24 年 7 月)
「障害者の社会参加に関する特別世論調査」(平成 17 年 1 月)

(平成 18 年度の調査から、調査対象者に調査主体が「内閣府」であることを提示した上で実施。)

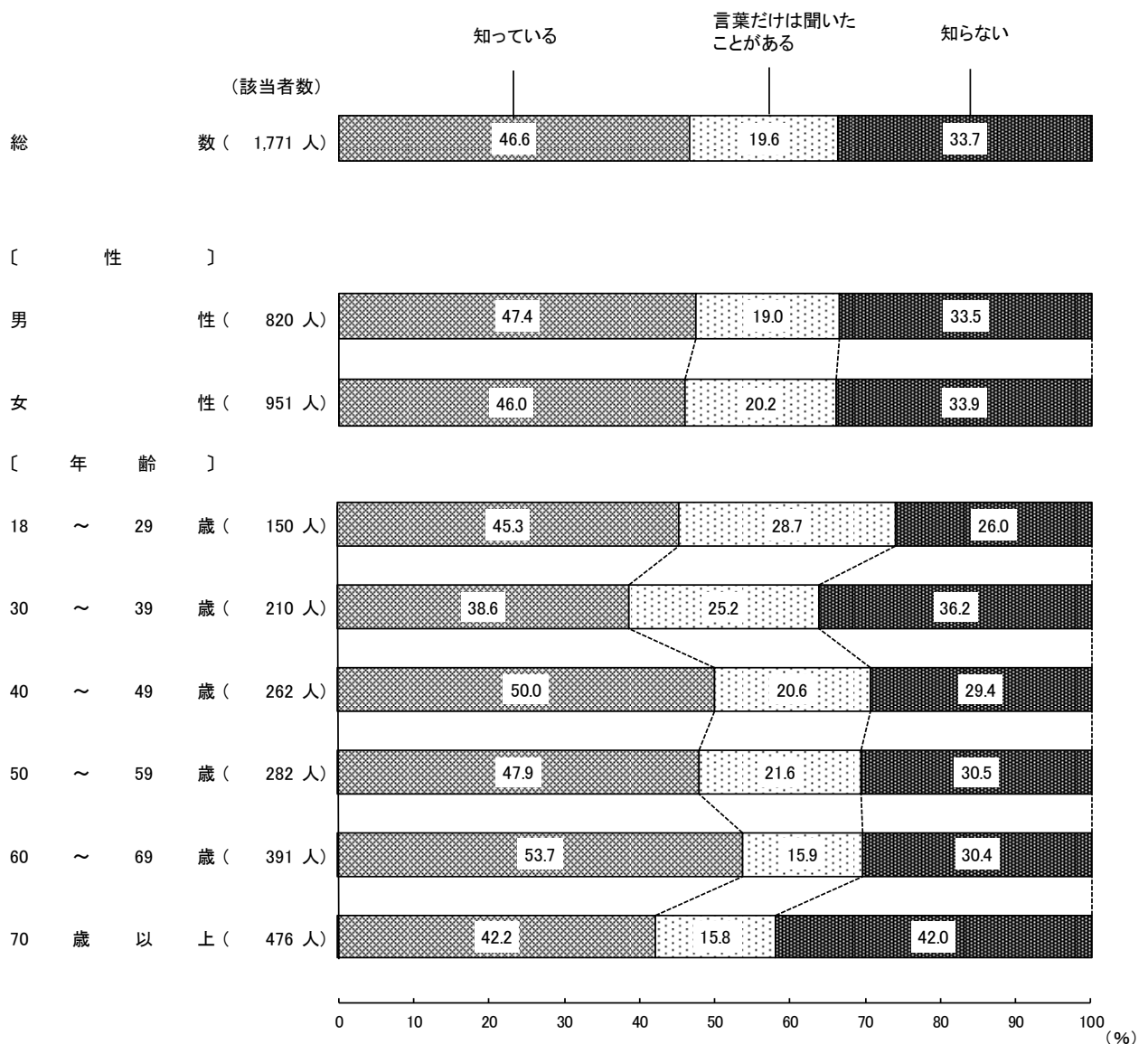
その他 平成 28 年度から調査対象者の年齢を 18 歳以上に引き下げているため、20 歳以上を対象としていた前回調査までとの単純な比較には注意を要する。

1 障害者に対する意識について

(1) 「共生社会」の周知度

問1 あなたは、障害のある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。この中から1つだけお答えください。

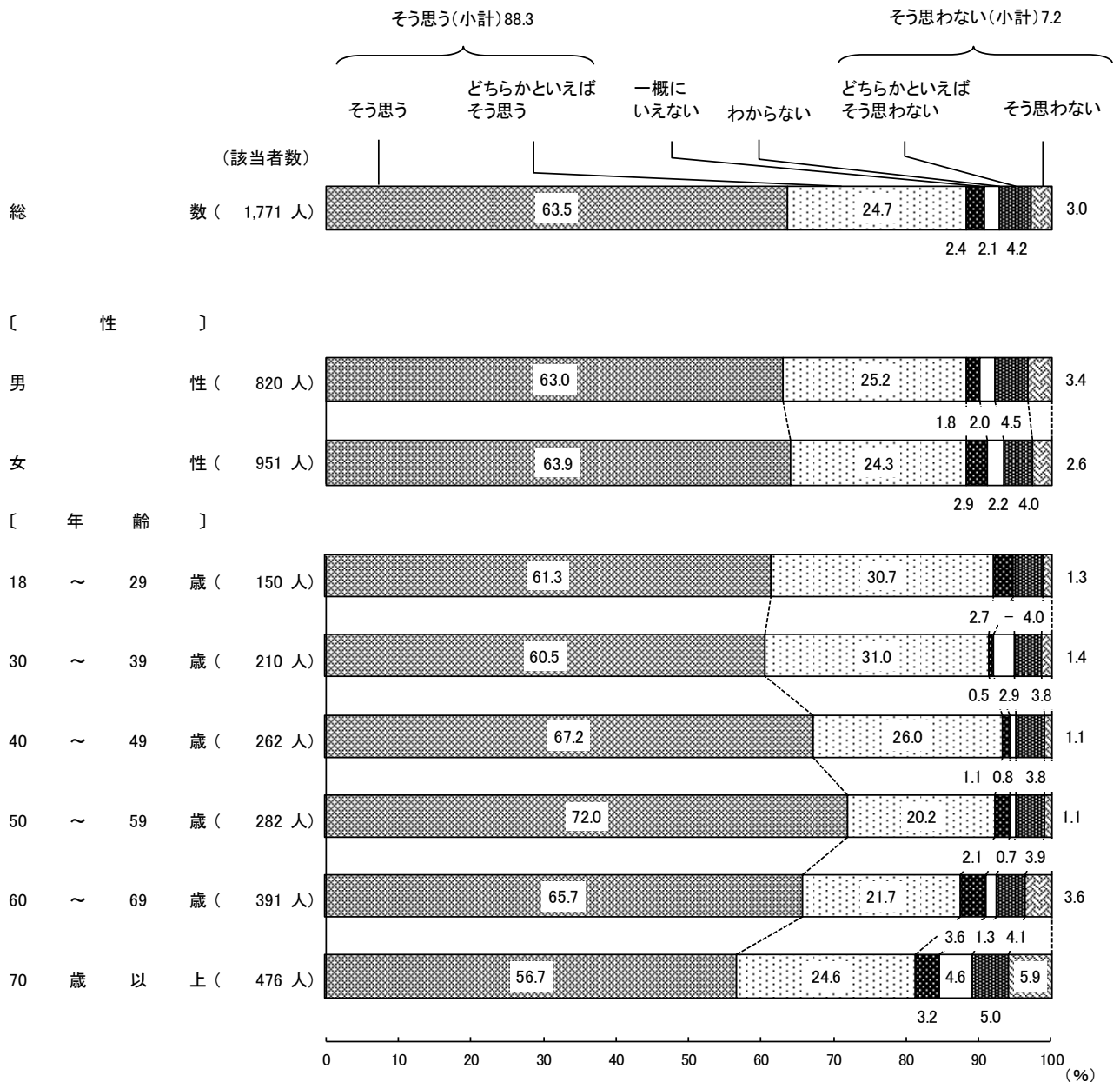
| | | |
|----------------|-------------|-----------------|
| | 平成 29 年 8 月 | (参考)平成 24 年 7 月 |
| ・知っている | 46.6% | 40.9% |
| ・言葉だけは聞いたことがある | 19.6% | 24.2% |
| ・知らない | 33.7% | 35.0% |



(2) 「共生社会」の考え方について

問2 国や地方公共団体では、「共生社会」の考え方に基づいて、障害のある人もない人も共に生活できるための環境づくりを進めています。あなたは、この「障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前」という考え方について、どう思いますか。この中から1つだけお答えください。

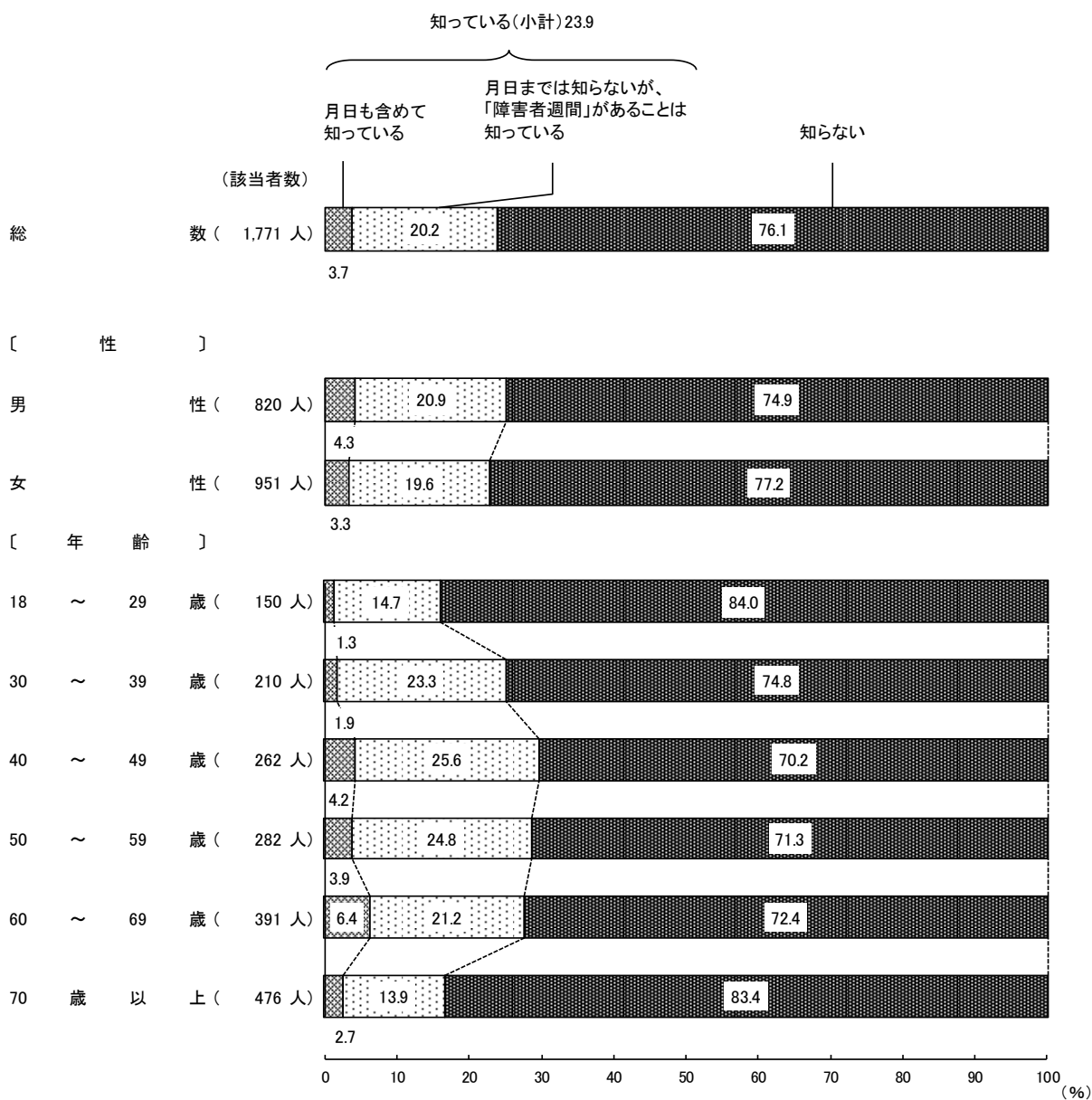
| | 平成 29 年 8 月 | (参考)平成 24 年 7 月 |
|--------------------|--------------|-----------------|
| <u>そう思う (小計)</u> | <u>88.3%</u> | <u>88.4%</u> |
| ・そう思う | 63.5% | 64.2% |
| ・どちらかといえばそう思う | 24.7% | 24.2% |
| <u>そう思わない (小計)</u> | <u>7.2%</u> | <u>7.9%</u> |
| ・どちらかといえばそう思わない | 4.2% | 4.9% |
| ・そう思わない | 3.0% | 3.0% |



(3) 障害者週間の周知度

問3 国は、障害や障害のある人に関する理解と関心を深め、障害のある人の社会参加への意欲を高めるために、毎年12月3日から12月9日までの1週間を「障害者週間」と定めて、さまざまな取り組みを行っています。あなたは、「障害者週間」を知っていますか。この中から1つだけお答えください。

| | 平成 29 年 8 月 | (参考)平成 24 年 7 月 |
|--------------------------------|--------------|-----------------|
| 知っている (小計) | <u>23.9%</u> | <u>28.6%</u> |
| ・月日も含めて知っている | 3.7% | 3.1% |
| ・月日までは知らないが、「障害者週間」があることは知っている | 20.2% | 25.5% |
| 知らない | <u>76.1%</u> | <u>71.4%</u> |



ア 「障害者週間」を何で知ったか

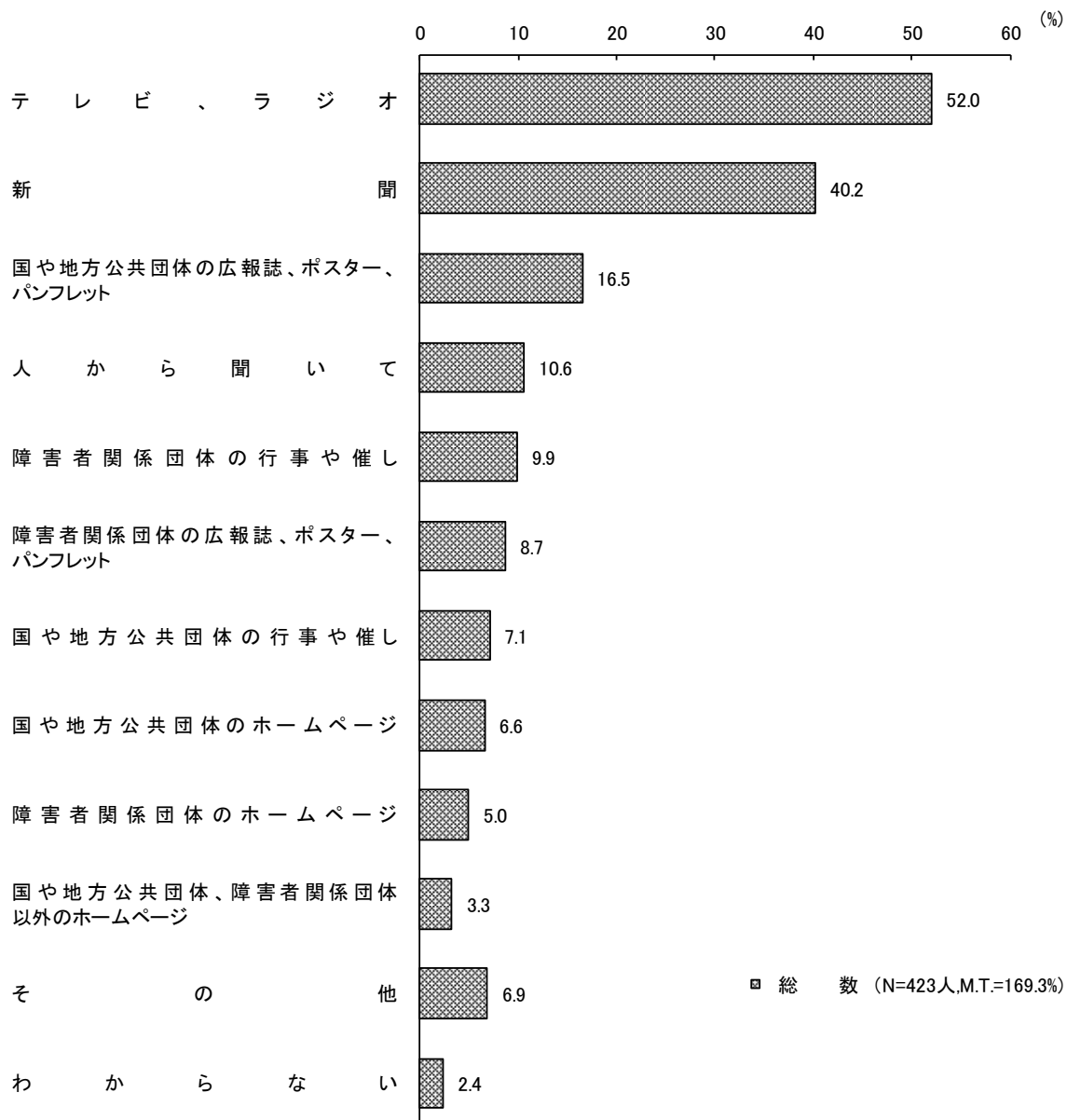
更問 (問3で「(ア)月日も含めて知っている」、「(イ)月日までは知らないが、「障害者週間」があることは知っている」と答えた方(423人)に)
それは何によって知りましたか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位3項目)

| | 平成29年8月 | (参考)平成24年7月 |
|---------------------------|---------|-------------|
| ・テレビ、ラジオ | 52.0% | ※ |
| ・新聞 | 40.2% | ※ |
| ・国や地方公共団体の広報誌、ポスター、パンフレット | 16.5% | 26.3% |

(注) 平成24年7月調査では、「テレビ、ラジオ、新聞などの報道」と聞いている。

(「障害者週間」を「知っている」とする者に、複数回答)

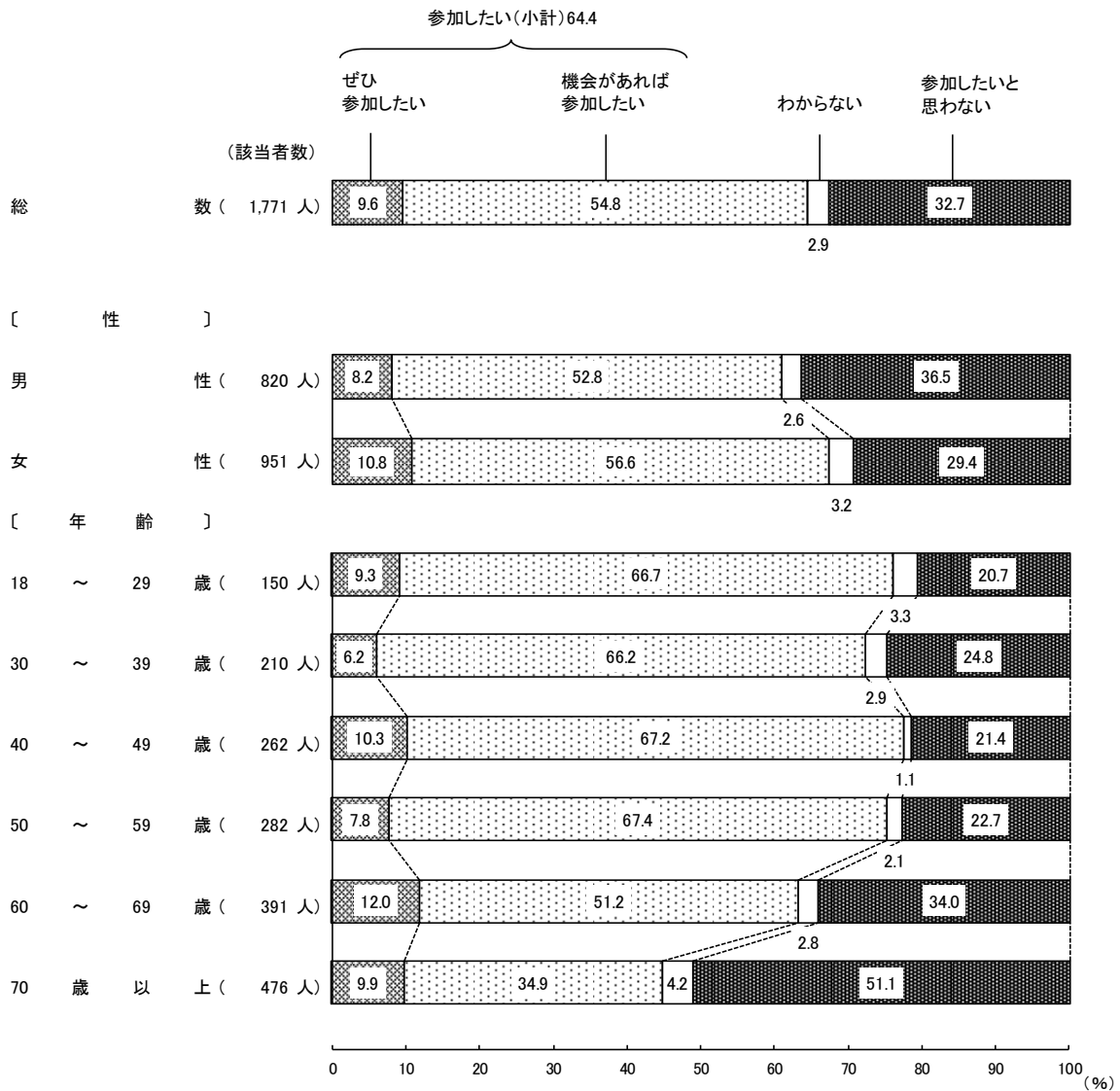


2 障害者とのふれあいについて
 (1) 行事や催しへの参加意向

問4 国や地方公共団体では、「障害者週間」を中心に障害のある人に対する理解を深めるために、次のようなさまざまな行事や催し（注）を行っています。あなたは、このような行事や催しに参加してみたいと思いませんか。この中から1つだけお答えください。

平成 29 年 8 月 (参考)平成 24 年 7 月

| | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 参加したい (小計) | <u>64.4%</u> | <u>69.3%</u> |
| ・ぜひ参加したい | 9.6% | 7.6% |
| ・機会があれば参加したい | 54.8% | 61.7% |
| 参加したいと思わない | <u>32.7%</u> | <u>29.3%</u> |



(注) ・ 障害のある人のことをテーマとしたセミナーやシンポジウム
 ・ 障害のある人による演劇・コンサート
 ・ 障害のある人とともに行うスポーツ
 ・ 障害のある人が作成した絵画等展示会・作品展
 ・ 福祉バザー

ア 参加したい行事や催し

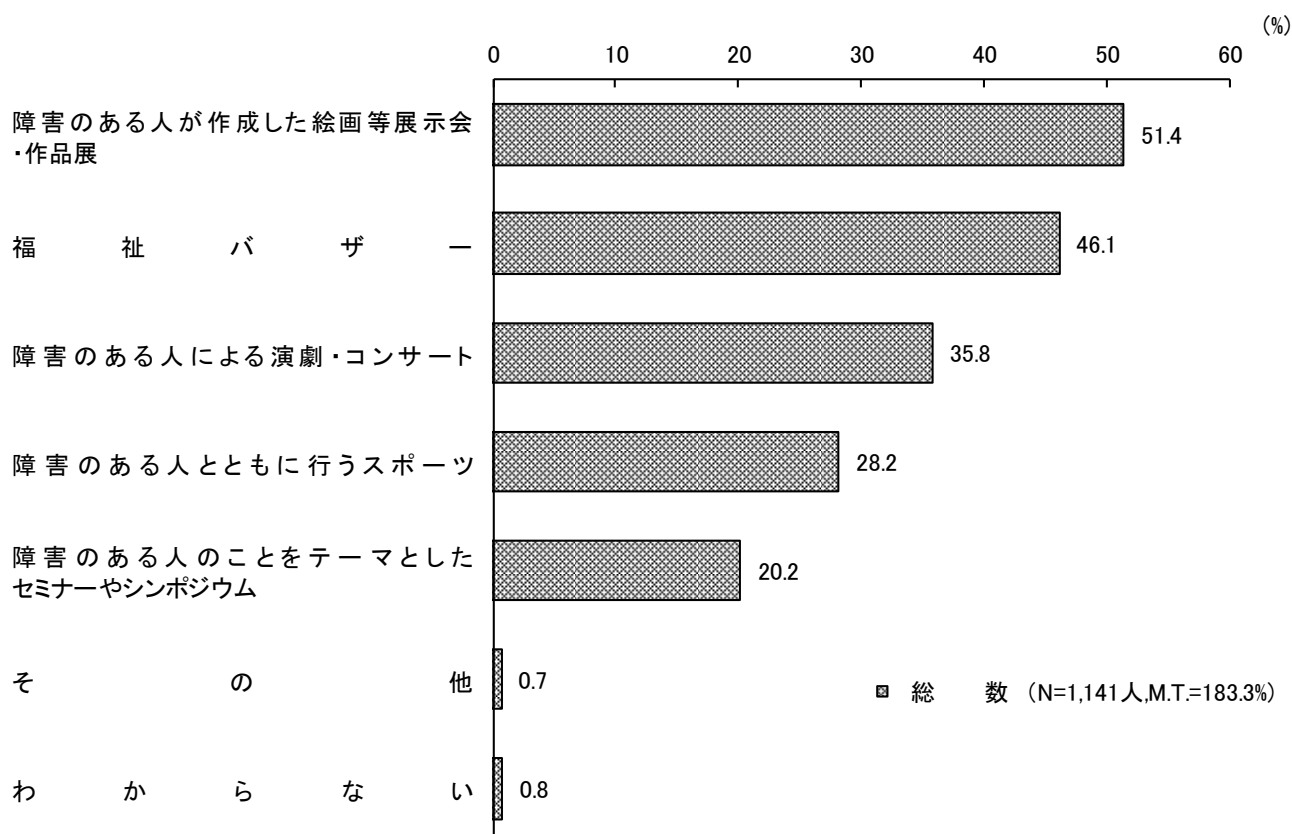
更問 (問4で「(ア) ぜひ参加したい」、「(イ) 機会があれば参加したい」と答えた方(1,141人)に)
 どのような行事や催しに参加したいと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位4項目)

平成29年8月

| | |
|------------------------|-------|
| ・障害のある人が作成した絵画等展示会・作品展 | 51.4% |
| ・福祉バザー | 46.1% |
| ・障害のある人による演劇・コンサート | 35.8% |
| ・障害のある人とともに行うスポーツ | 28.2% |

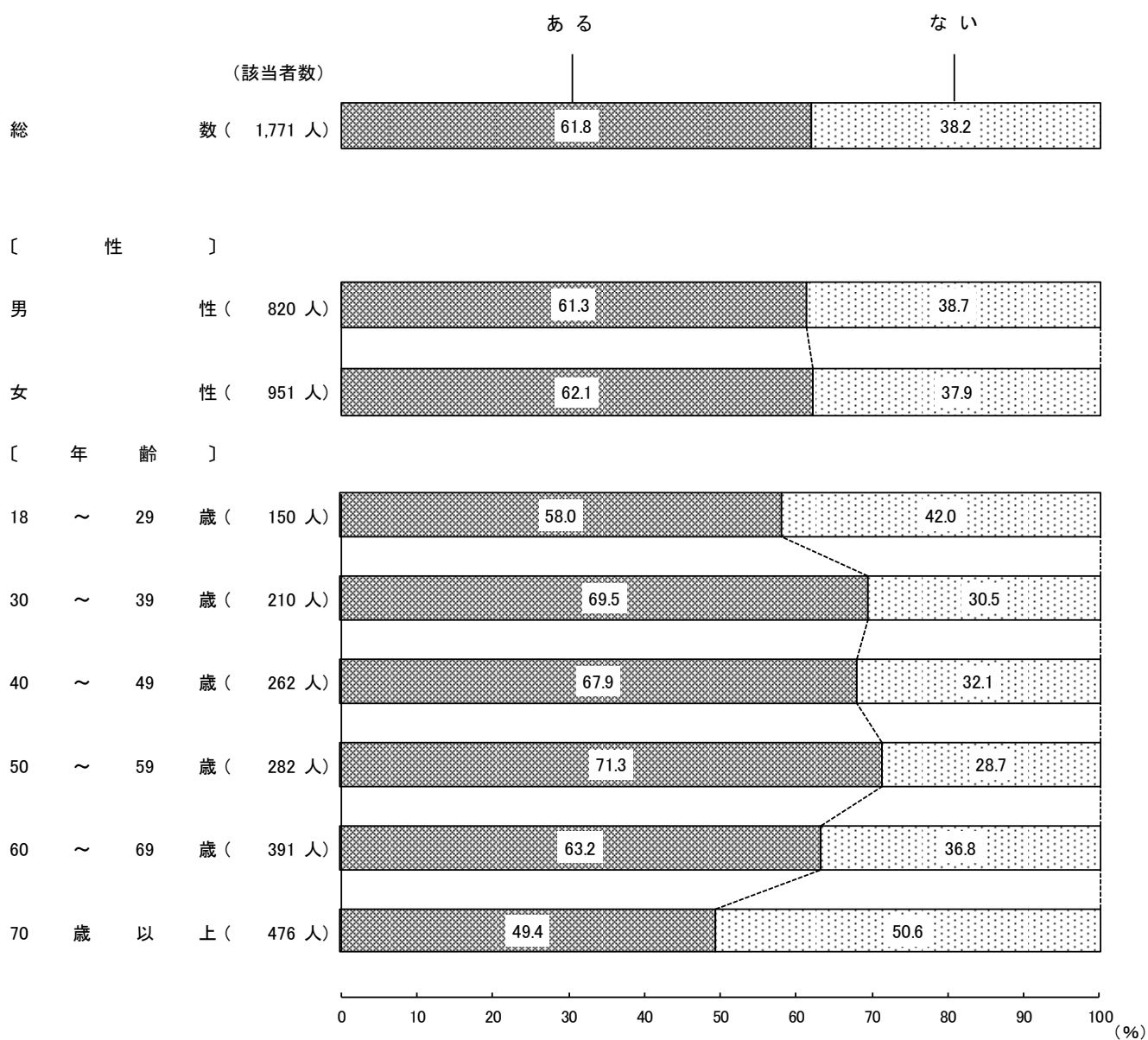
(行事や催しに「参加したい」とする者に、複数回答)



(2) 手助けの経験

問5 あなたは、障害のある人が困っているときに、手助けをしたことがありますか。

平成29年8月
 ・ある 61.8%
 ・ない 38.2%



ア 手助けをした理由

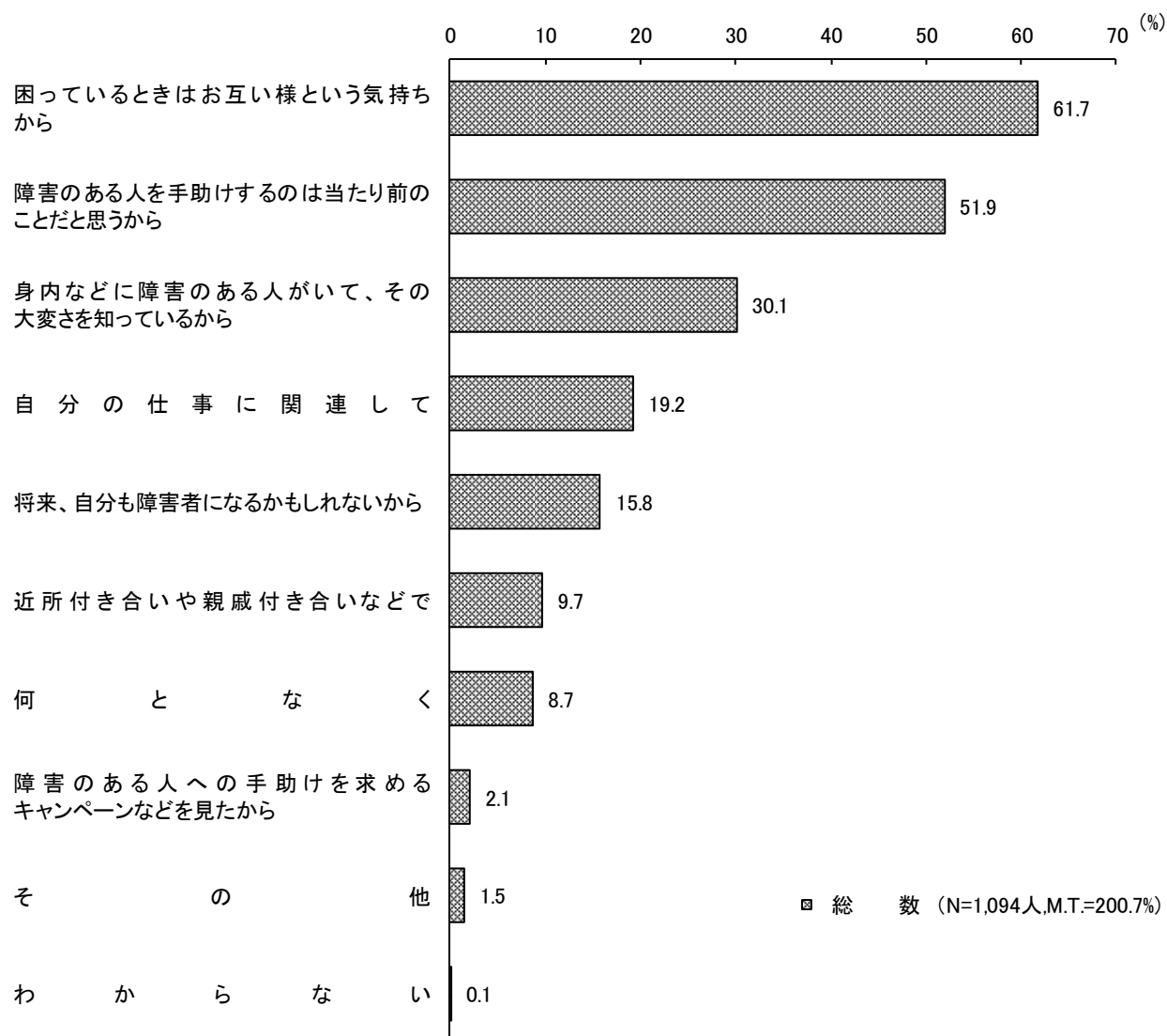
更問 (問5で「ある」と答えた方(1,094人)に)
 それはどのような気持ちからでしょうか。この中からいくつでもあげてください。
 (複数回答)

(上位3項目)

平成29年8月

- ・困っているときはお互い様という気持ちから 61.7%
- ・障害のある人を手助けするのは当たり前のことだと思うから 51.9%
- ・身内などに障害のある人がいて、その大変さを知っているから 30.1%

(障害のある人に手助けをしたことがあると答えた者に、複数回答)



イ 手助けをしたことがない理由

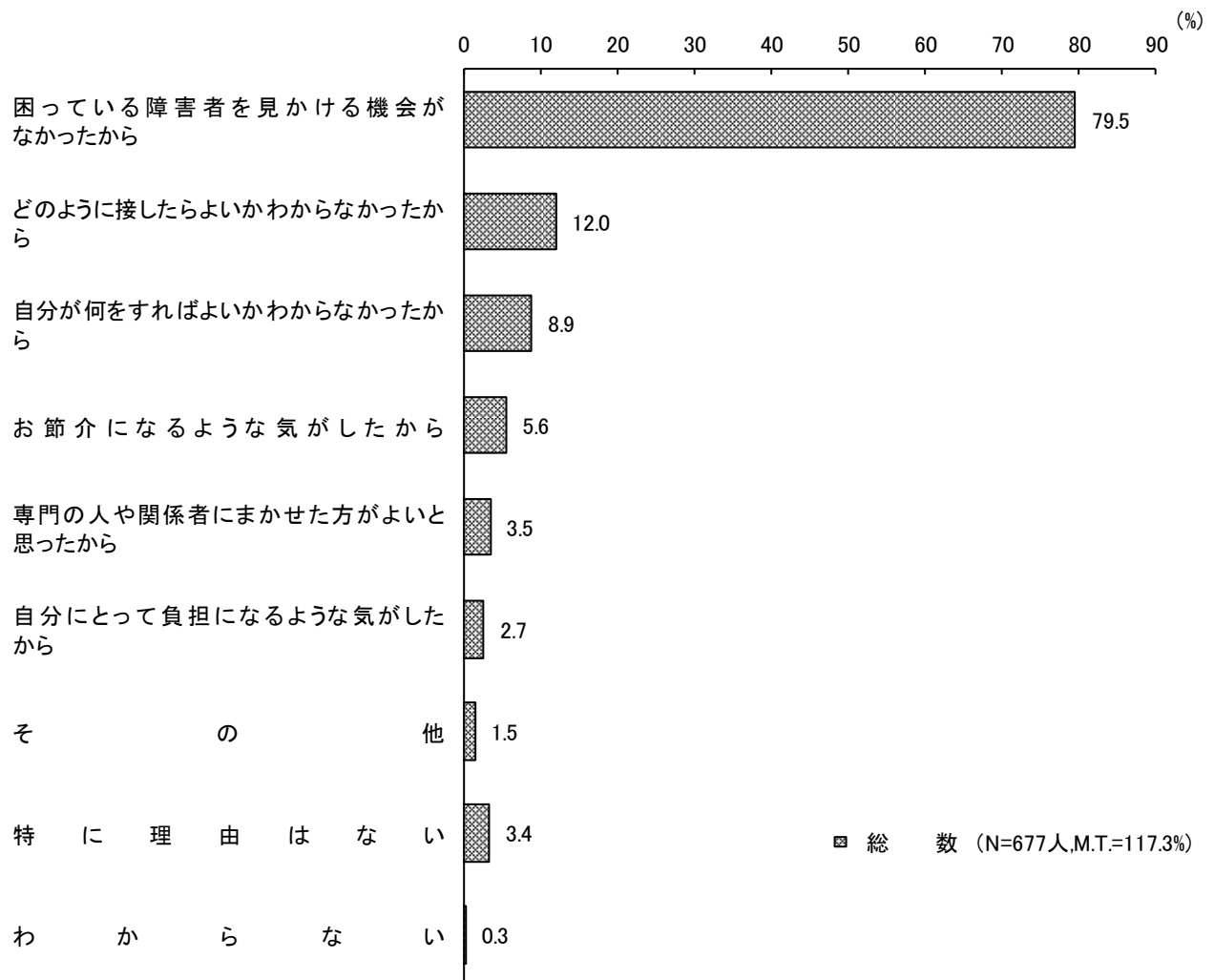
更問 (問5で「ない」と答えた方(677人)に)
 なかったのはどうしてでしょうか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位2項目)

平成29年8月

- ・困っている障害者を見かける機会がなかったから 79.5%
- ・どのように接したらよいかわからなかったから 12.0%

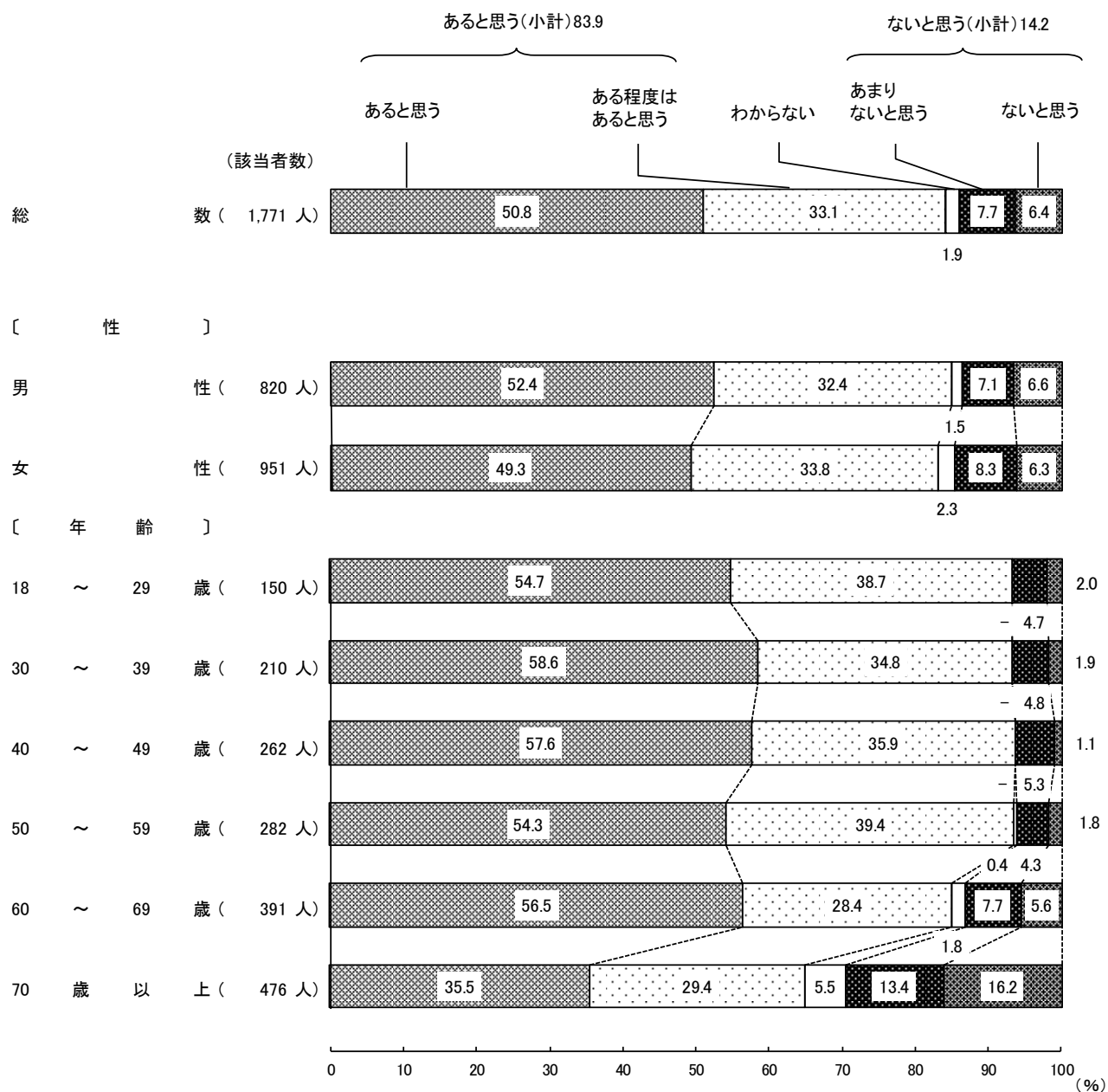
(障害のある人に手助けをしたことがないと答えた者に、複数回答)



(3) 差別や偏見の有無

問6 あなたは、世の中には障害のある人に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。この中から1つだけお答えください。

| | 平成 29 年 8 月 | (参考)平成 24 年 7 月 |
|-------------------|--------------|-----------------|
| <u>あると思う (小計)</u> | <u>83.9%</u> | <u>89.2%</u> |
| ・あると思う | 50.8% | 56.1% |
| ・ある程度はあると思う | 33.1% | 33.0% |
| <u>ないと思う (小計)</u> | <u>14.2%</u> | <u>9.7%</u> |
| ・あまりないと思う | 7.7% | ※ |
| ・ないと思う | 6.4% | 9.7% |



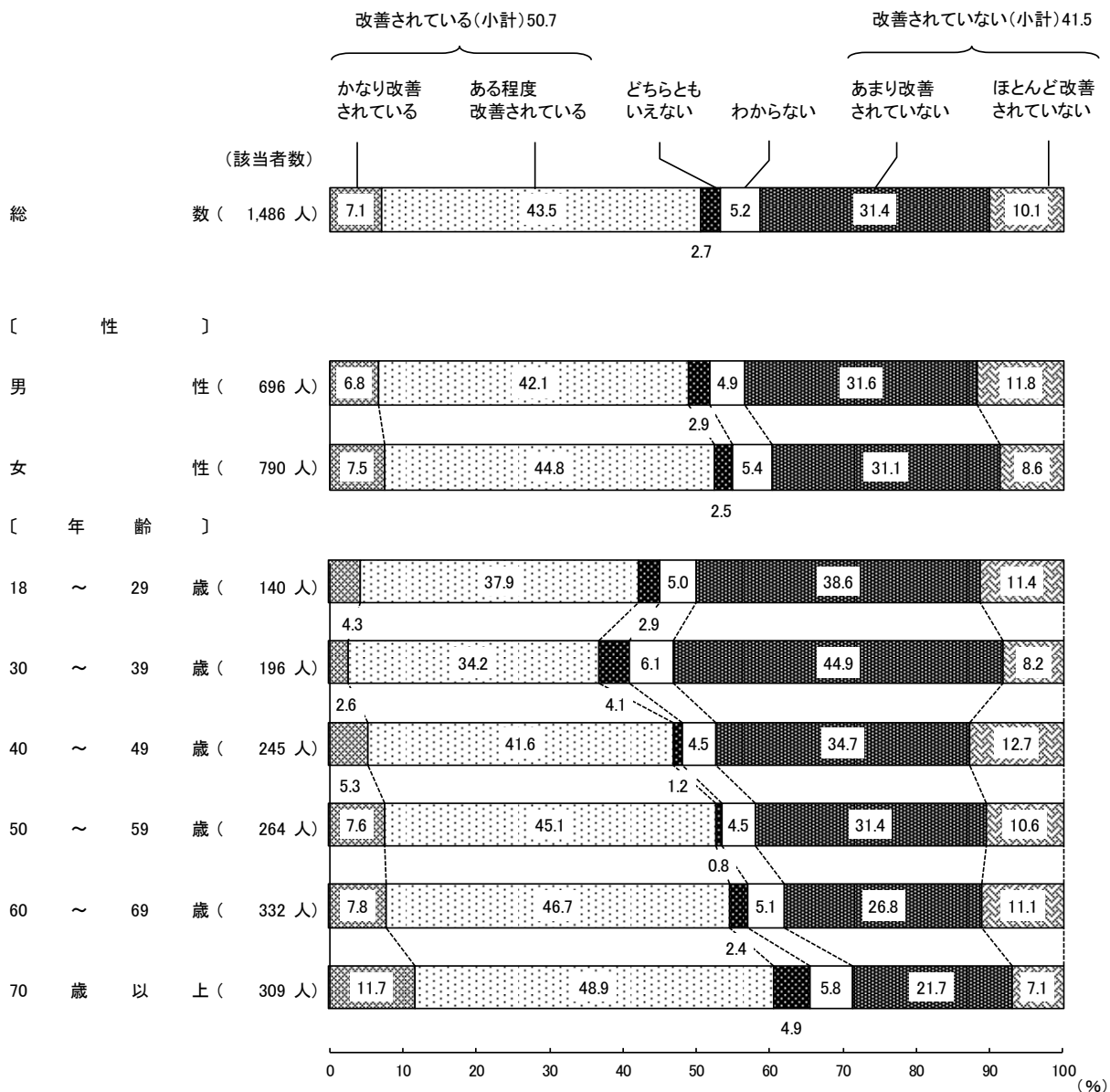
ア 差別や偏見の改善状況

更問 (問6で「(ア) あると思う」、「(イ) ある程度はあると思う」と答えた方(1,486人)に)

あなたは、5年前と比べて障害のある人に対する差別や偏見は改善されたと思いますか。この中から1つだけお答えください。

| | 平成 29 年 8 月 | (参考)平成 24 年 7 月 |
|---------------|-------------|-----------------|
| 改善されている (小計) | 50.7% | 51.5% |
| ・かなり改善されている | 7.1% | 8.5% |
| ・ある程度改善されている | 43.5% | 43.0% |
| 改善されていない (小計) | 41.5% | 40.8% |
| ・あまり改善されていない | 31.4% | 31.9% |
| ・ほとんど改善されていない | 10.1% | 8.9% |

(障害を理由とする差別や偏見が「あると思う」とする者に)

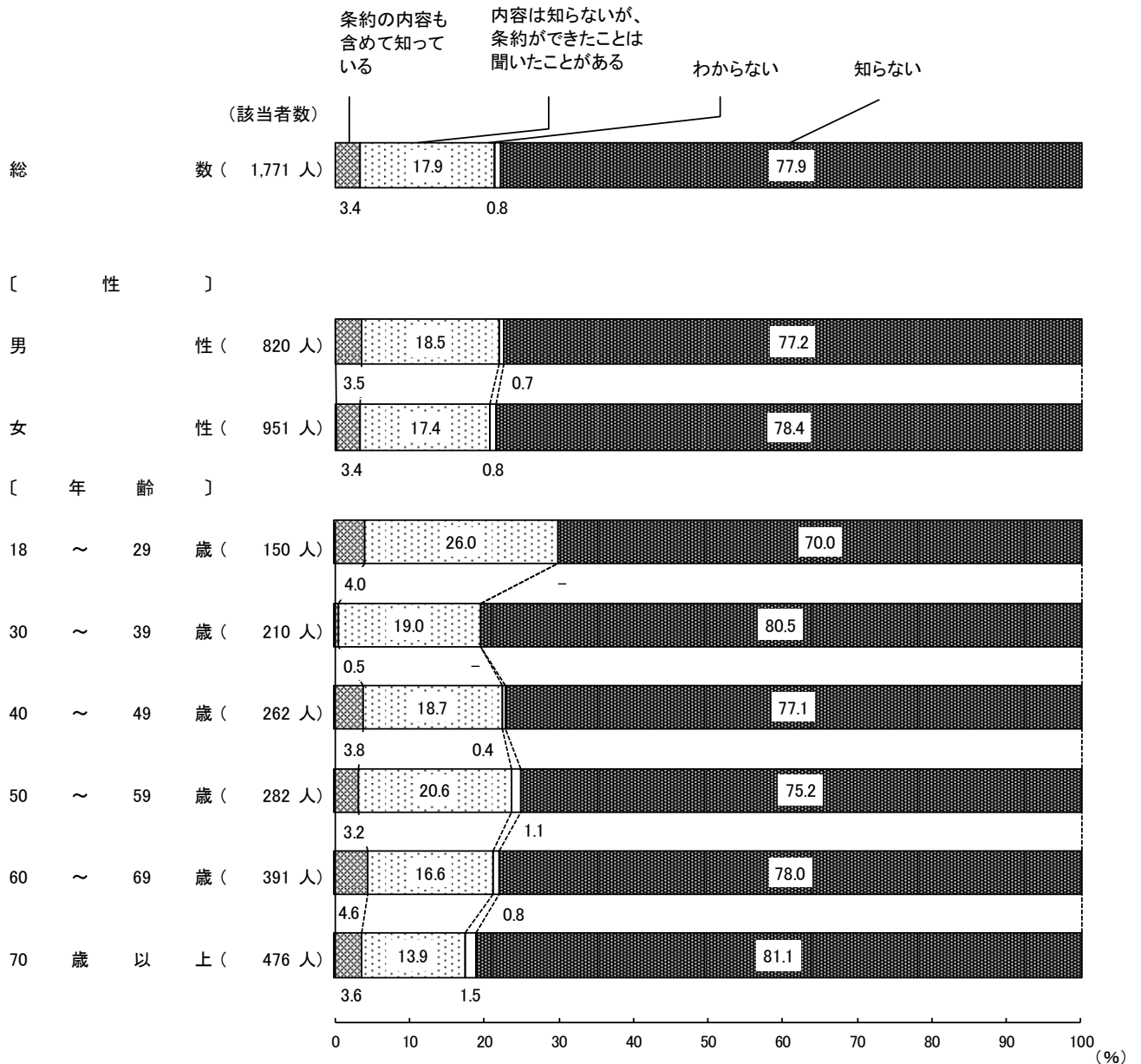


3 障害者関連施策について

(1) 障害者権利条約の周知度

問7 いわゆる「障害者権利条約」は、国連が障害者の権利や尊厳を保護・促進するため、障害を理由とする差別の禁止や、障害のある人が障害のない人と同じように暮らすためのさまざまな施策を包括的に定めた条約です。この条約を日本は平成26年1月に批准しましたが、あなたは、この条約のことを知っていますか。この中から1つだけお答えください。

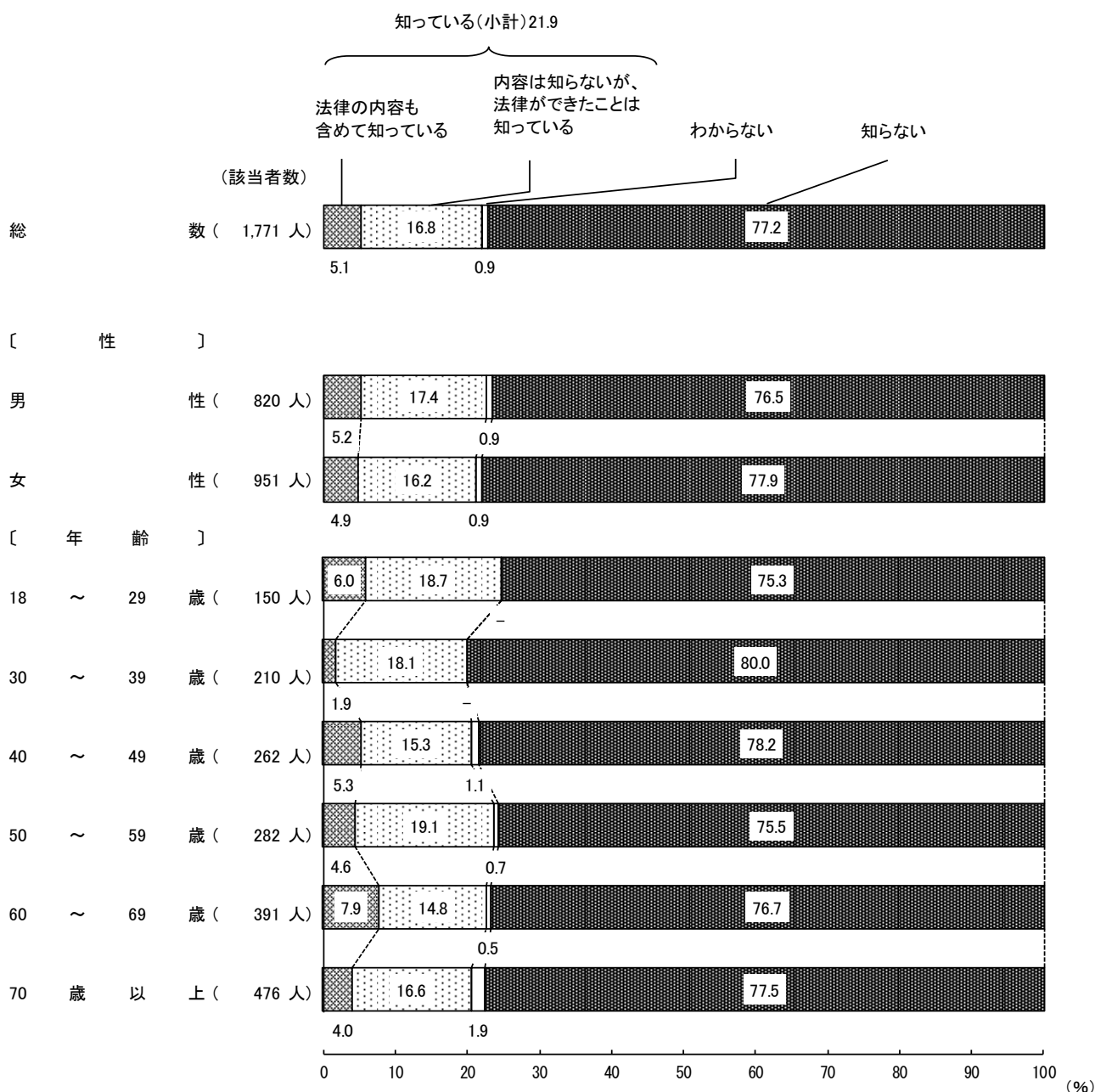
| | 平成 29 年 8 月 | (参考)平成 24 年 7 月 |
|-----------------------------|-------------|-----------------|
| ・条約の内容も含めて知っている | 3.4% | 2.2% |
| ・内容は知らないが、条約ができたことは聞いたことがある | 17.9% | 15.8% |
| ・知らない | 77.9% | 81.5% |



(2) 障害者差別解消法の周知度

問 8 障害のある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながら共に生きる社会づくりを目指すため、平成28年4月からいわゆる「障害者差別解消法」が施行されています。あなたは、この法律を知っていますか。この中から1つだけお答えください。

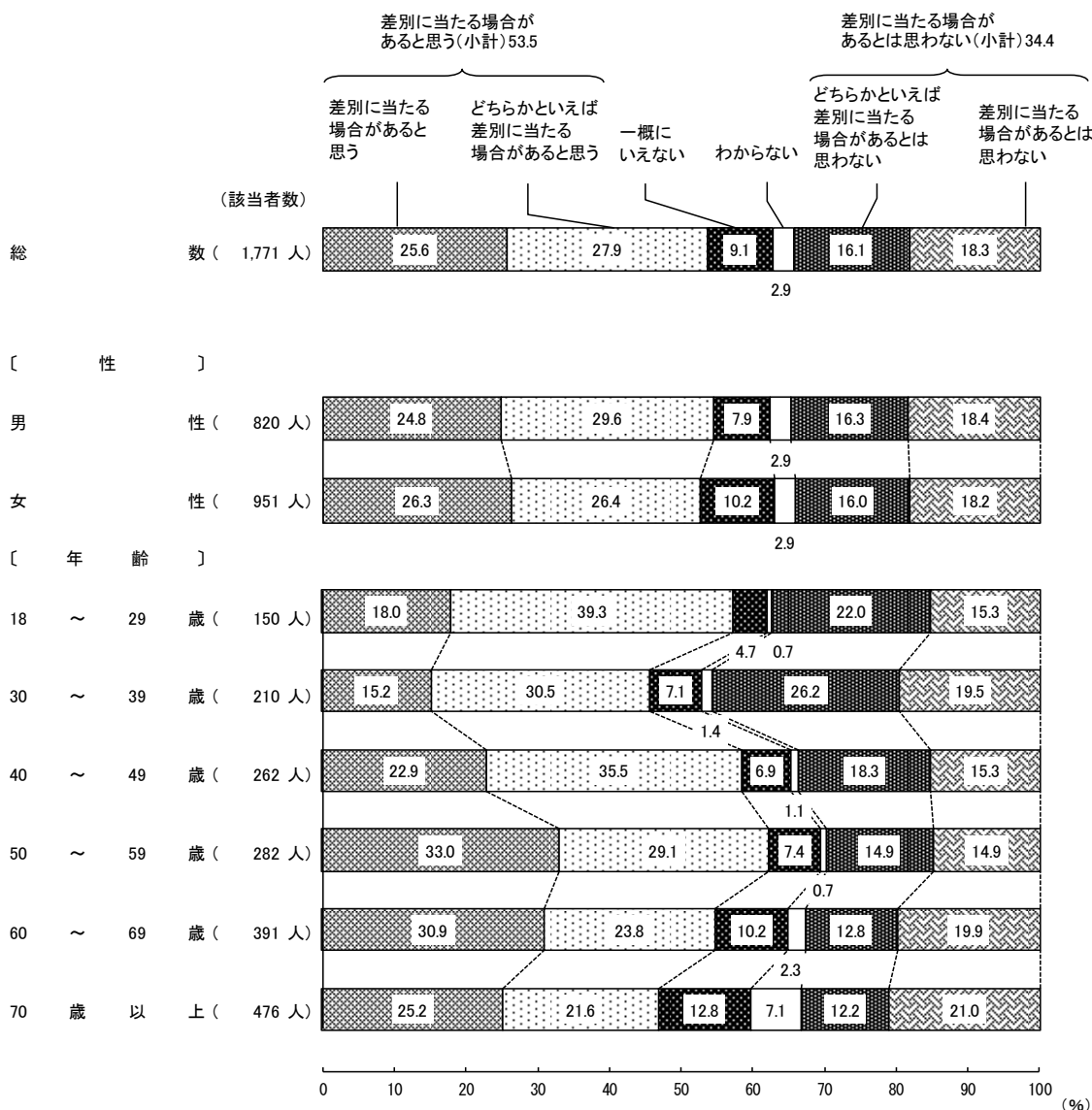
| | |
|---------------------------|-------------|
| | 平成 29 年 8 月 |
| 知っている (小計) | 21.9% |
| ・ 法律の内容も含めて知っている | 5.1% |
| ・ 内容は知らないが、法律ができたことは知っている | 16.8% |
| 知らない | 77.2% |



(3) 合理的な配慮と差別について

問9 あなたは、もし、こうした配慮や工夫が行われなかったとしたら、それが「障害を理由とする差別」にあたる場合があると思いますか。この中から1つだけお答えください。
(※資料)

| | 平成 29 年 8 月 | (参考)平成 24 年 7 月 |
|-----------------------------|-------------|-----------------|
| 差別に当たる場合があると思う (小計) | 53.5% | 46.1% |
| ・ 差別に当たる場合があると思う | 25.6% | 18.6% |
| ・ どちらかといえば差別に当たる場合があると思う | 27.9% | 27.5% |
| 差別に当たる場合があるとは思わない (小計) | 34.4% | 45.7% |
| ・ どちらかといえば差別に当たる場合があるとは思わない | 16.1% | 21.6% |
| ・ 差別に当たる場合があるとは思わない | 18.3% | 24.1% |



※【資料】障害のある人への配慮や工夫

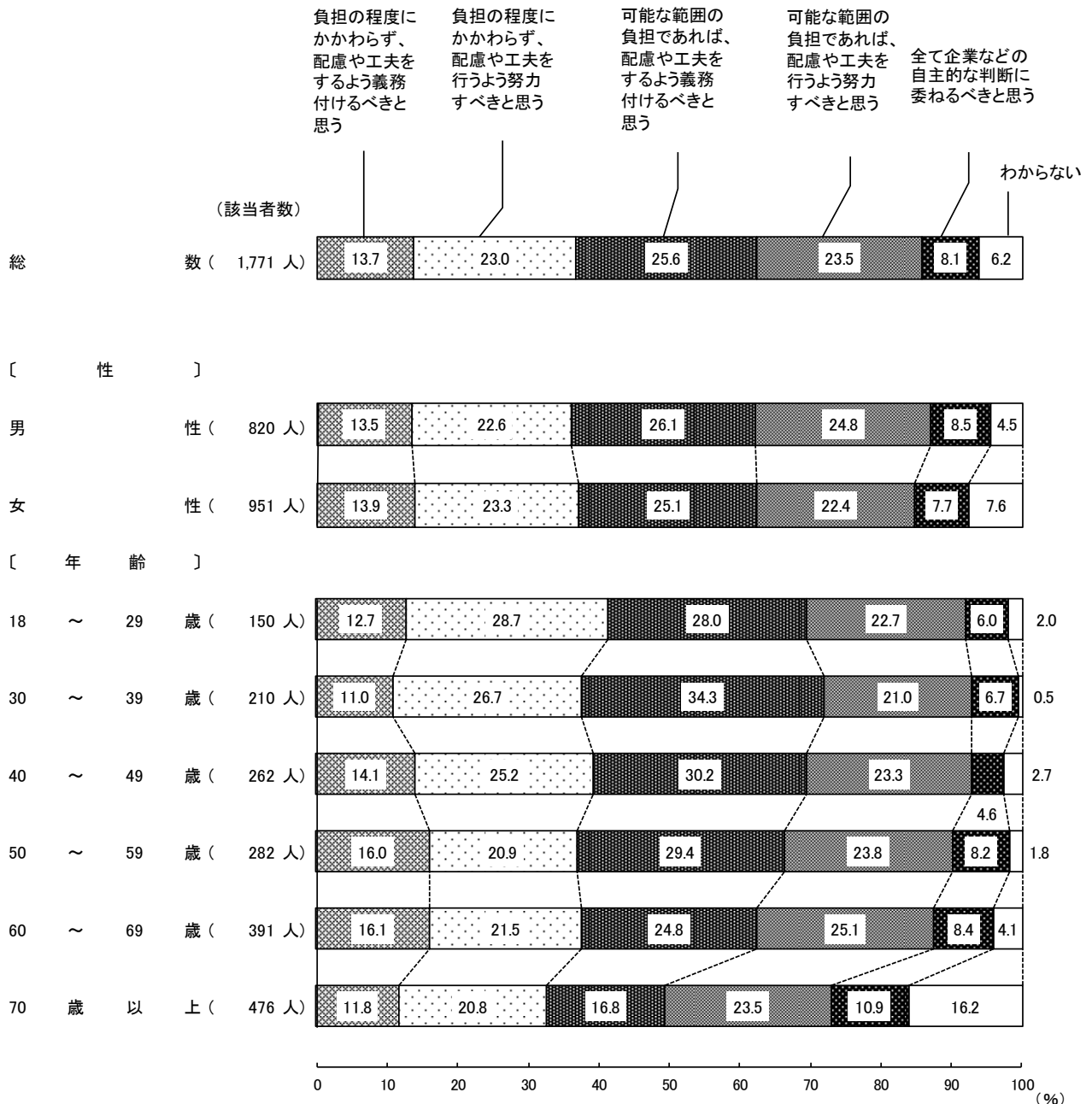
障害のある人とない人が同じように生活するためには、例えば、受付窓口で耳の不自由な方に筆談で対応したり、商店で高い棚にある商品を店員が代わりに取ってあげたりするなど、さまざまな配慮や工夫が必要になることがあります。

(4) 負担と配慮について

問 10 障害のある人が、障害のない人と同じように生活していくためには、さまざまな配慮や工夫が必要になります。一方、こうした配慮や工夫を行うには、経済的な負担を伴う場合もあります。あなたは、企業などがこうした配慮や工夫をどの程度行うべきと考えますか。この中から1つだけお答えください。

平成 29 年 8 月

- ・負担の程度にかかわらず、配慮や工夫をするよう義務付けるべきと思う 13.7%
- ・負担の程度にかかわらず、配慮や工夫を行うよう努力すべきと思う 23.0%
- ・可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫をするよう義務付けるべきと思う 25.6%
- ・可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫を行うよう努力すべきと思う 23.5%
- ・全て企業などの自主的な判断に委ねるべきと思う 8.1%



(5) 障害者支援マークの周知度

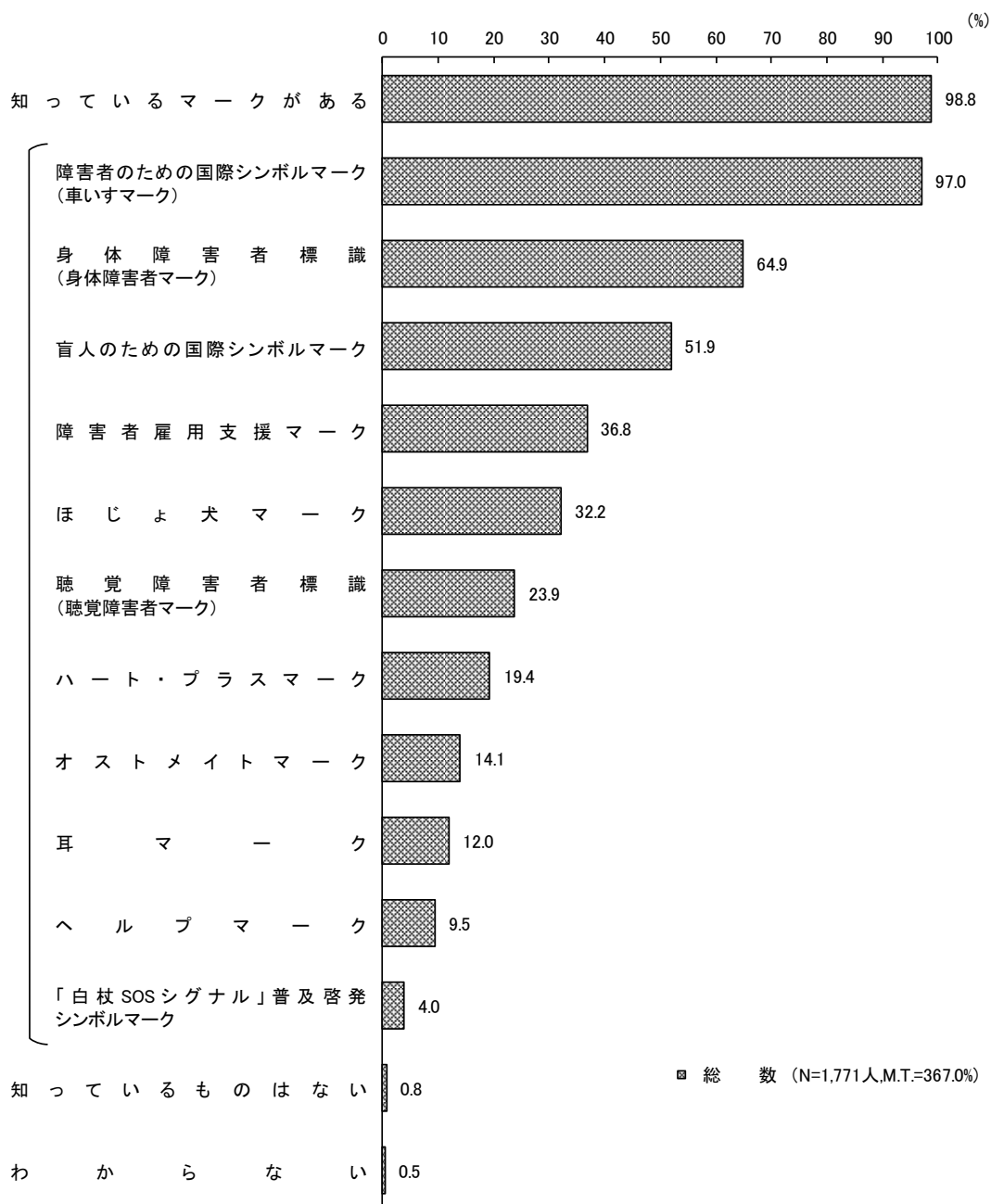
問 11 障害者団体などでは、障害者を支援するため、さまざまなマークを作成し、周知に努めています。あなたは、この中で知っているマークはありますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位4項目)

平成 29 年 8 月

- ・ 障害者のための国際シンボルマーク (車いすマーク) 97.0%
- ・ 身体障害者標識 (身体障害者マーク) 64.9%
- ・ 盲人のための国際シンボルマーク 51.9%
- ・ 障害者雇用支援マーク 36.8%

(複数回答)



(参考) 障害者支援マーク (周知度の高い順)

| | | |
|--|---|---|
| <p>障害者のための国際シンボルマーク (車いすマーク) (97.0%)</p>  | <p>身体障害者標識 (身体障害者マーク) (64.9%)</p>  | <p>盲人のための国際シンボルマーク (51.9%)</p>  |
| <p>障害者雇用支援マーク (36.8%)</p>  | <p>ほじょ犬マーク (32.2%)</p>  | <p>聴覚障害者標識 (聴覚障害者マーク) (23.9%)</p>  |
| <p>ハート・プラスマーク (19.4%)</p>  | <p>オストメイトマーク (14.1%)</p>  | <p>耳マーク (12.0%)</p>  |
| <p>ヘルプマーク (9.5%)</p>  | <p>「白杖 SOS シグナル」普及啓発シンボルマーク (4.0%)</p>  | |

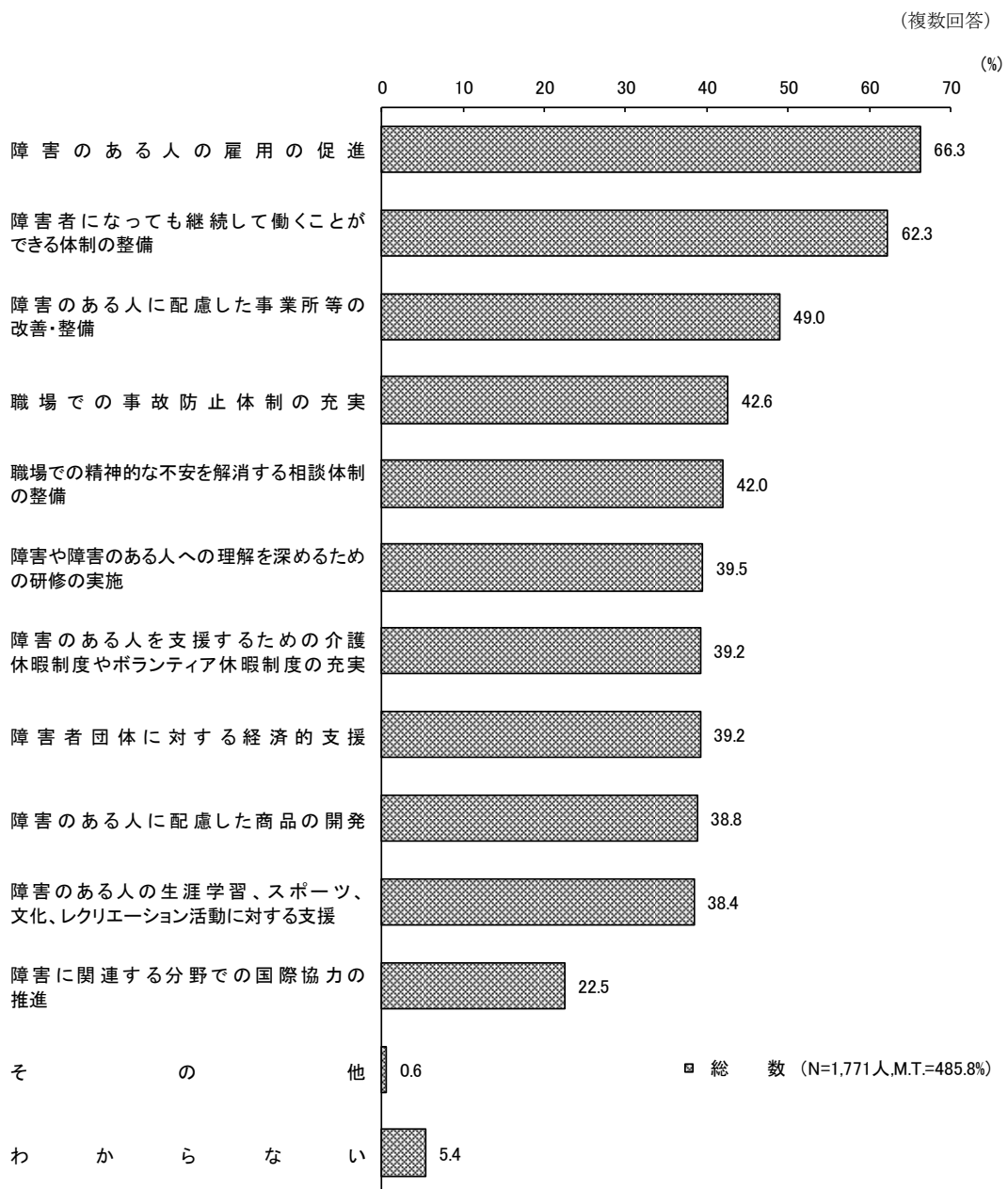
(6) 企業や民間団体への要望

問 12 あなたは、障害のある人のために企業や民間団体が行う活動について、どのようなことを希望しますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位 3 項目)

平成 29 年 8 月 (参考)平成 24 年 7 月

- ・ 障害のある人の雇用の促進 66.3% 67.3%
- ・ 障害者になっても継続して働くことができる体制の整備 62.3% 61.4%
- ・ 障害のある人に配慮した事業所等の改善・整備 49.0% 49.5%

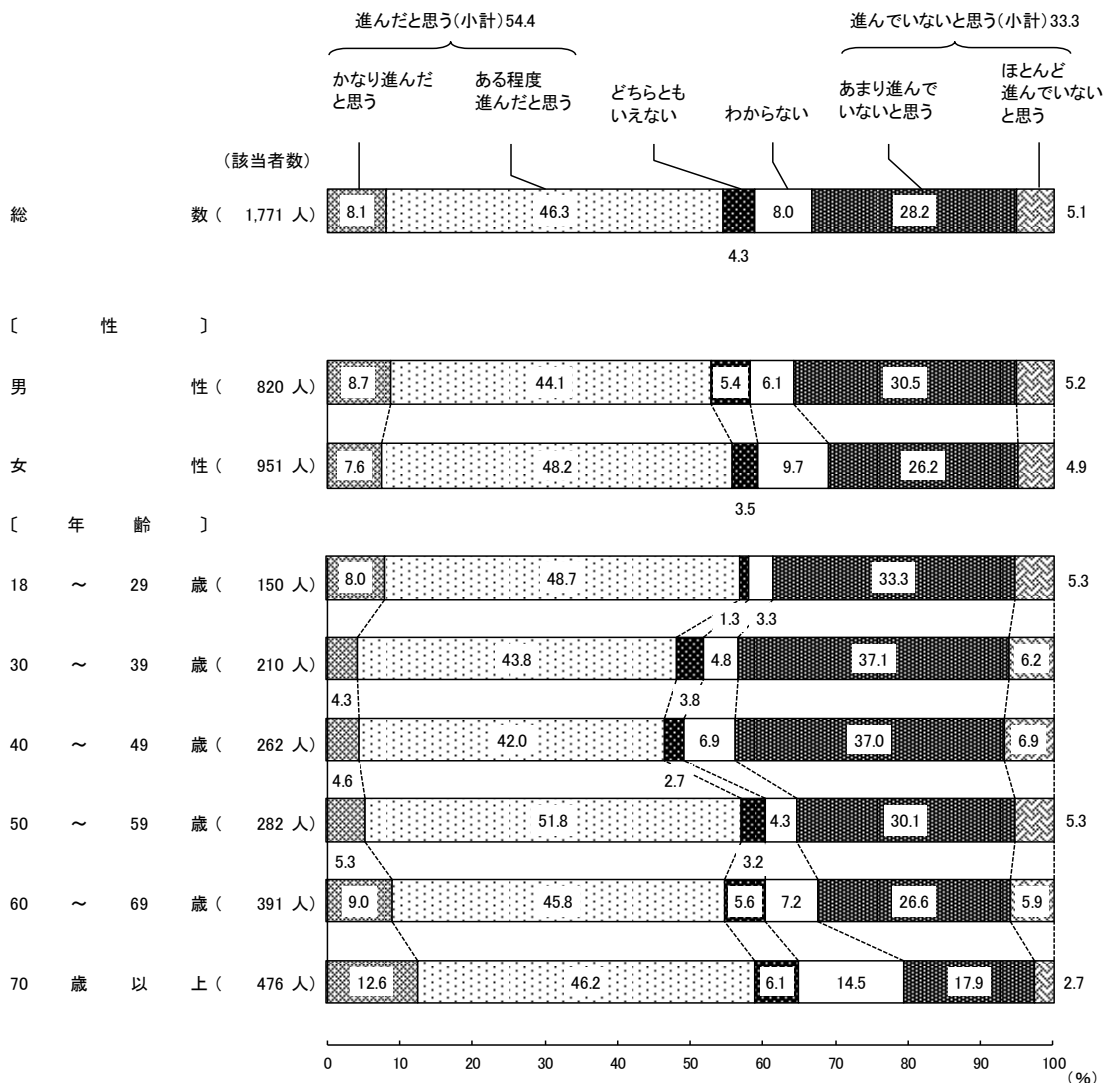


(7) 障害者施策は進んだか

問 13 あなたは、5年前と比べて次のような障害者施策（注1）は進んだと思いますか。この中から1つだけお答えください。

| | 平成 29 年 8 月 | (参考)平成 24 年 7 月 (注 2) |
|-----------------------|--------------|-----------------------|
| <u>進んだと思う (小計)</u> | <u>54.4%</u> | <u>49.0%</u> |
| ・かなり進んだと思う | 8.1% | 7.1% |
| ・ある程度進んだと思う | 46.3% | 41.9% |
| <u>進んでいないと思う (小計)</u> | <u>33.3%</u> | <u>42.8%</u> |
| ・あまり進んでいないと思う | 28.2% | 34.7% |
| ・ほとんど進んでいないと思う | 5.1% | 8.2% |

(注 2) 平成 24 年 7 月調査では、「5年前と比べて福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障害者施策は進んだと思いますか。」と聞いている。



(注 1)

- ・障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動
- ・障害に応じた職業訓練の充実や雇用の確保
- ・ホームヘルプサービスなどの在宅サービスの充実
- ・保健医療サービスやリハビリテーションの充実
- ・生活の安定のための年金や手当の充実
- ・点字・手話、字幕放送などによる情報提供の充実
- ・障害のある人に配慮した住宅や建物、交通機関の整備
- ・障害のある人が差別を受けた際の相談窓口や紛争解決機能の充実
- ・障害のある子どもの相談・支援体制や教育と、障害のある人への生涯学習の充実

(8) 国や地方公共団体への要望

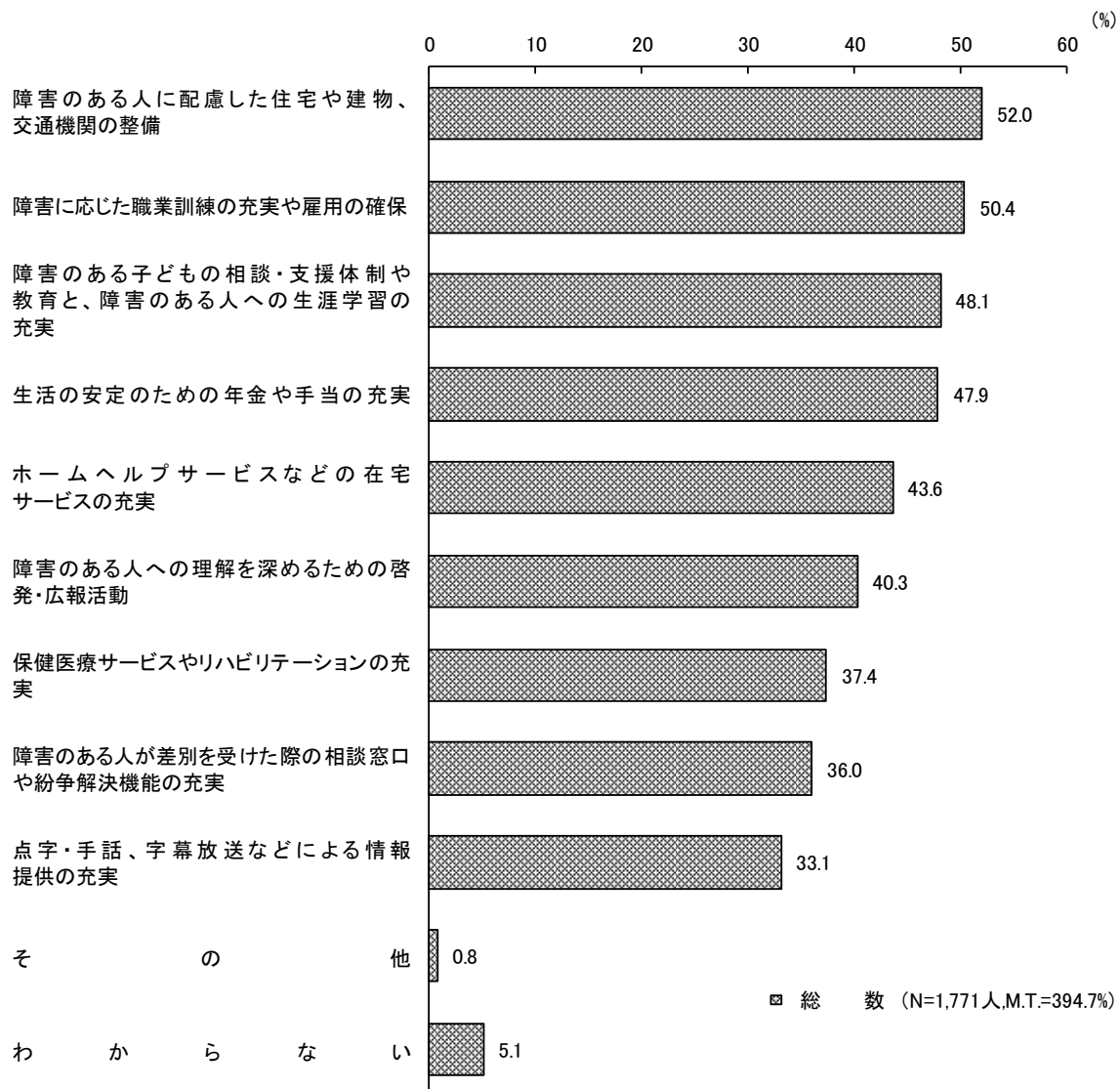
問 14 障害のある人に関する国や地方公共団体の施策のうち、あなたがもっと力を入れる必要があると思うものをこの中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位 4 項目)

| | 平成 29 年 8 月 | (参考)平成 24 年 7 月 |
|--|-------------|-----------------|
| ・ 障害のある人に配慮した住宅や建物、交通機関の整備 | 52.0% | 49.7% |
| ・ 障害に応じた職業訓練の充実や雇用の確保 | 50.4% | 50.4% |
| ・ 障害のある子どもの相談・支援体制や教育と、障害のある人への生涯学習の充実 | 48.1% | 54.3% (注) |
| ・ 生活の安定のための年金や手当の充実 | 47.9% | 50.5% |

(注) 平成 24 年 7 月調査では、「障害のある子どもの相談・支援体制や教育の充実」と、聞いている。

(複数回答)

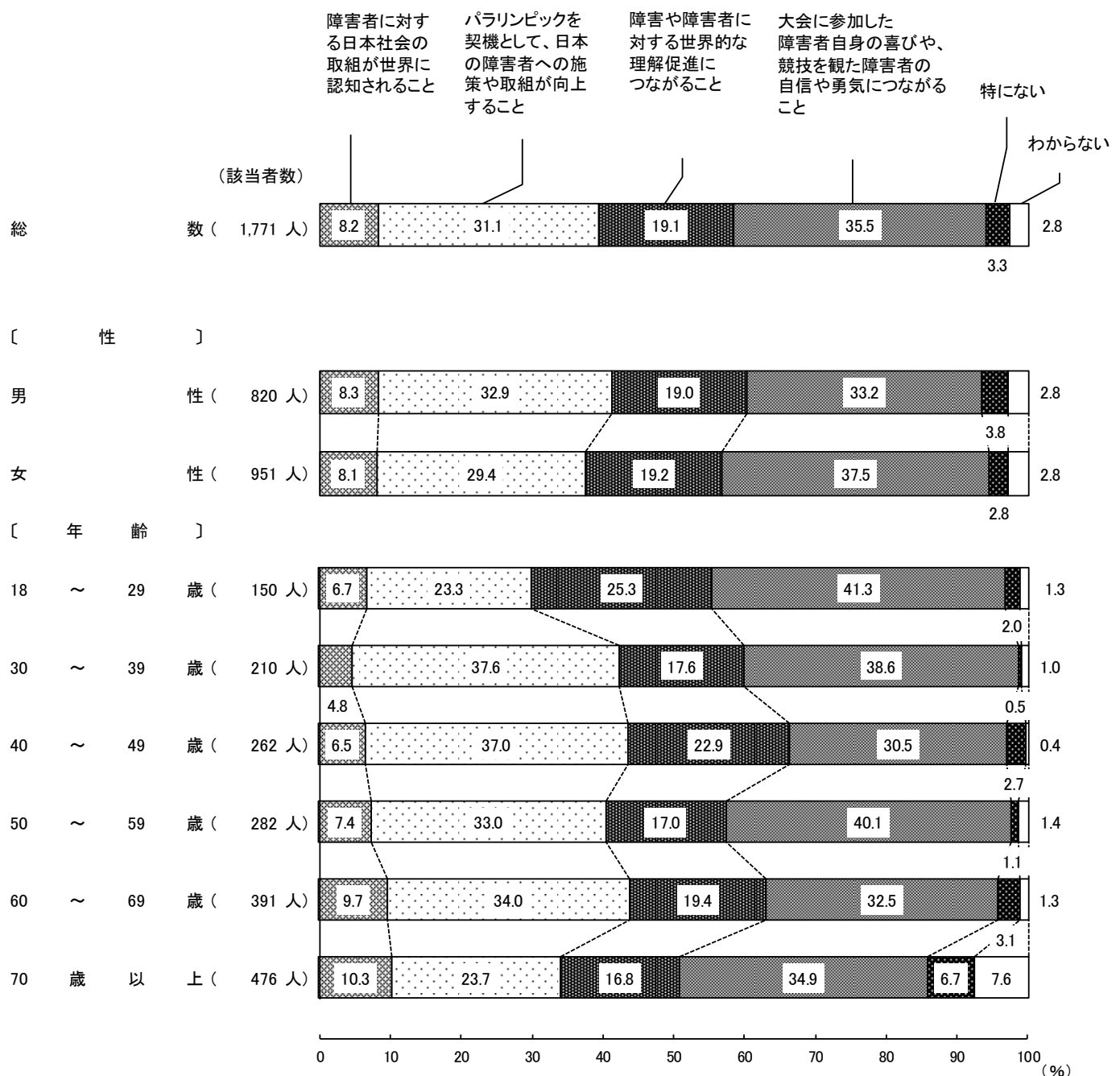


(9) 東京オリンピック・パラリンピックへの期待

問 15 2020年に東京でオリンピック・パラリンピック競技大会が開催される予定です。さまざまな国と地域から多くの障害者がパラリンピックに参加することが見込まれますが、あなたは、どのような効果を期待しますか。この中から1つだけお答えください。

平成 29 年 8 月

- ・ 障害者に対する日本社会の取組が世界に認知されること 8.2%
- ・ パラリンピックを契機として、日本の障害者への施策や取組が向上すること 31.1%
- ・ 障害や障害者に対する世界的な理解促進につながる事 19.1%
- ・ 大会に参加した障害者自身の喜びや、競技を観た障害者の自信や勇気につながる事 35.5%



(10) しょうがいの表記

問 16 「しょうがい」の表記について、法令では四角で囲った字（**障害**）を使っていますが、この表記の在り方については、さまざまな意見があります。「しょうがい」の表記として、どれがふさわしいと思いますか。この中から1つだけお答えください。

平成 29 年 8 月 （参考）平成 24 年 7 月

| | | |
|---------------|-------|-------|
| しょうがい ・ 障害 | 31.6% | 33.8% |
| しょうがい ・ 障碍 | 2.5% | 2.4% |
| しょう ・ 障がい | 40.1% | 35.5% |
| ・ どれでもよい | 18.8% | 21.9% |

